



白神の環境保全 研究に役立てて 青森・工藤パン 弘大基金に寄付 青森市の工藤パンは25

日、弘前大学が4月に設置した「白神の森基金」に10万円を寄付した。寄付金は同大などが開発した「白神の森乳酸菌®」を配合した製品の売り上げの一部。同基金への寄付は初めて

で、寄付金は白神山地の環境保全活動や白神に関する研究支援金と

して活用される。
「白神の森乳酸菌®」は弘前大学と弘前市の化粧品メーカー「ラビプレ」が共同研究で開発した乳酸菌。同社は今年1月から、この乳酸菌を配合した食パンやコッペパン、ホイップシューなど7品を開発し、現在も4品を販売している。
寄付金贈呈式は25日、同大で行われ、工藤パンの工藤恭裕代表取締役会長が福田眞作学長に目録を贈呈。贈呈式には同大農学生命科学部の東信行部長、ラビプレの三浦和英代表取締役らも同席した。
工藤会長は「売り上げの一部を白神山地の環境保全や研究に役立てていただ

ければ」とし、福田学長は感謝状を贈って寄付と「白神の森乳酸菌®」を使った商品開発に感謝するともに「白神を巡る研究もますます進めばいい」と述べた。
同社は今後も売り上げの一部を同基金に寄付する考え。大学側では今回の寄付金を9月に深浦町で予定している市民参加型生物調査イベントの経費として活用する予定。（今井珠世）